

CentreCOM® VS812TX リリースノート

この度は、CentreCOM VS812TX をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解
いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 4.1.2J

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 1.0.5J から 4.1.2J へのバージョンアップにおいて、以下の項目
が追加されました。各機能の詳しい説明につきましては、「7 マニュアルの構成について」に
あります、本製品の最新マニュアル「取扱説明書」および「AT-S42 オペレーションマニユアル」
をご参照ください。

- 2.1 コマンドラインインターフェース対応
- 2.2 ログインユーザーの認証および設定
- 2.3 ポートトランッキング機能（ポート 9 ～ 12）
- 2.4 SNMP マネージャーからのリクエストの有効 / 無効設定
- 2.5 FTP サーバー機能
- 2.6 FTP/TFTP サーバーの有効 / 無効設定
- 2.7 スパニングツリープロトコル（ポート 9 ～ 12）
- 2.8 syslog サーバーへのログ出力
- 2.9 設定ファイルのテキスト保存

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 1.0.5J から 4.1.2J へのバージョンアップにおいて、以下の項目
が変更されました。

- 3.1 新しい MAC アドレスの学習時に発行する、New Address トラップ対応
- 3.2 ログ機能で、ログの再表示が可能

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 1.0.5J から 4.1.2J へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 デフォルトゲートウェイアドレスが Null（工場出荷時設定）の状態、異なるサブネット宛にパケットを送信した場合、「0.0.0.0」で ARP Request が送出されていましたが、デフォルトゲートウェイアドレスが Null のときには、ARP Request が送出されないように修正しました。
- 4.2 本製品と同一の IP アドレスを持つコンピューターを接続してしまった場合、コンピューターの IP アドレスの変更などを行っても、本製品を再起動しない限り、本製品宛通信、および本製品からコンピューター宛の通信ができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.3 SNMP で ifDescr を参照する際に、ifEntry.1 ～ ifEntry.24、または ifEntry.1 と ifEntry.2 のように複数同時に取得しようとすると、本製品が誤った値を返す場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.4 SNMP RMON 総受信パケット数に Undersize、Oversize、Fragment パケット数が含まれるように修正しました。
- 4.5 Default VLAN 以外のポートで送信元 MAC アドレスが全て 0 のパケットを受信した場合、MAC アドレステーブルに学習していましたが、これを修正しました。
- 4.6 ファームウェアを TFTP で送信時、リモートファイル名を「config」として送信すると本製品がハングアップしていましたが、これを修正しました。
- 4.7 アクティブモニターを表示している状態で、本製品宛に TFTP で「config.img」を転送した場合、本製品が自動的に再起動されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.8 本製品にログイン後、他のノードへの Telnet または Ping を実行中に、本製品宛に TFTP で「config.img」を転送した場合、本製品が自動的に再起動されませんでしたが、これを修正しました。
- 4.9 「VLAN Definition Menu」画面で VLAN を新規作成するとき、「VLAN Name」より先に「All Ports On Vlan」を入力してから前のメニューに戻ると、VLAN ID が予約されてしまい、その ID の VLAN が作成できませんでしたが、これを修正しました。
- 4.10 本製品から登録したスタティック MAC アドレス宛のパケットにタグが付与されていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.11 ポートセキュリティの設定を Secure(セキュリティモード)に設定したとき、セキュリティモード対象外のポートのスタティック MAC アドレスがクリアされていましたが、これを修正しました。

- 4.12 新規作成した VLAN で、MAC アドレス登録を行い、その VLAN を消去した後、マルチプル VLAN モードに変更して、「Get Port From MAC Address」で検索すると、VLAN 名が「Null (not configured)」と表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.13 存在しない MAC アドレス宛に、MAC アドレス指定の Ping を実行すると RARP が約 15 秒間連続送信されていましたが、これを修正しました。
- 4.14 IGMP スヌーピングを有効にした状態で、本製品に存在しない VLAN ID を持った IGMP Query および IGMP Report を受信すると、そのグループが MAC アドレステーブルに登録されていましたが、これを修正しました。
- 4.15 LAN ID が 4094 の VLAN を作成し、その VLAN のポートに送信元 MAC アドレスが「000001-B30001」のパケットを送信した場合など、MAC アドレスメニューに表示されない場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.16 DHCP クライアント動作時、SNMP のプライベート MIB から DHCP Lease Time を確認すると、T1 および T2 が DHCP Lease Time と同じ値になっていましたが、これを修正しました。
- 4.17 マルチプル VLAN とスパンニングツリーを併用した場合、コンソールがハングアップしたり、リポートが発生する場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.18 IGMP スヌーピングを有効にすると MAC アドレステーブルに「FFFFFF-FFFFFF」のアドレスが登録される場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.19 プライベート MIB において以下の項目を修正しました。
・オブジェクト名: fstswitchTtyGroup、変数名: fstswitchTtyDatarate
Description 中の 12800 を 19200 に修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

5.1 RMON MIB の仕様について

RMON MIB の alarmStartupAlarm の値が risingOrFallingAlarm のとき、Rising、FallingAlarm 動作時にトラップが 2 回発行されます。

5.2 マルチプル VLAN について

 参照「AT-S42 オペレーションマニュアル」46 ページ

マルチプル VLAN モード設定時、転送先（マネージメントポート含む）のない単一の VLAN を作成した場合、該当ポートでブロードキャストパケットを受信しても受信フレーム統計情報の Frames および Broadcasts のカウンターが正しくカウントアップされません。

5.3 システム名の指定について

参照「AT-S42 オペレーションマニュアル」 82, 193 ページ

本製品に設定する設置場所 (Location)、および管理者 (Contact) の情報として指定できる文字数は 64 文字までです。SET SYSTEM コマンドで 65 文字以上を指定した場合、65 文字目以降は無視されます。

5.4 ポートセキュリティについて

参照「AT-S42 オペレーションマニュアル」 85, 221 ページ

Limited モードを設定し、MAC アドレス学習中に、VLAN 設定で対象ポートをタグなしポートからタグ付きポートに変更すると、すでに学習済みの MAC アドレス宛のパケットにはタグが付与されません。

Limited モードを設定した後で、対象ポートをタグなしからタグ付きに変更した場合は、スタティック MAC テーブルの消去 (Clear static MAC table メニューおよび RESET FDB コマンド) またはスタティック MAC アドレスの削除 (Delete MAC address (Per port static MAC address) メニューおよび DELETE FDB DESTADDRESS コマンド) を行ってください。

5.5 システム診断テストの結果表示について

参照「AT-S42 オペレーションマニュアル」 63, 188 ページ

システム診断テストの結果表示 (Diagnostics メニューおよび SHOW DIAG コマンド) で、ボード上の温度が正常であるにもかかわらず、Board Temperature の項目が「Warning」と表示されることがあります。

6 マニュアルの補足

本製品の最新マニュアル「取扱説明書」および「AT-S42 オペレーションマニュアル」の補足事項です。

6.1 システム診断テストの結果表示について

参照「取扱説明書」 76 ページ

参照「AT-S42 オペレーションマニュアル」 63, 188 ページ

システム診断テスト (Diagnostics メニューおよび SHOW DIAG コマンド) の表示形式の一部が以下のように変更されました。

項目	内容
System power	本体の 5V/3.3V/2.5V/2V 各電源ユニットの供給電圧です。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗) で表示します。
Fan#1/#2	ファンの回転数です。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗) で表示します。
Board Temperature	ボード上の温度です。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗) で表示します。
CPU Temperature	CPU の温度です。Normal/Warning/Failed (読み取り失敗) で表示します。

6.1 エージングタイムの設定値について

 参照「AT-S42 オペレーションマニュアル」 68, 193 ページ

エージングタイム (Default Aging Time メニューおよび SET SYSTEM コマンド) として設定可能な値は、1 ~ 752 (秒) です。

7 マニュアルの構成について

ファームウェアバージョン 4.1.2J で、本製品のマニュアルは、「取扱説明書」と「AT-S42 オペレーションマニュアル」の 2 部構成に改版されました。

「取扱説明書」は、本製品の概要、設置と接続、本製品に設定を行うための手順と基本的な動作など、本製品を使い始めるにあたっての最低限の情報が記載されています。

「オペレーションマニュアル」は、各機能の解説、メニューとコマンドの使用方法など、本製品の設定項目に関するすべての情報が記載されています。これらのマニュアルは、弊社ホームページに掲載されていますので、同梱のマニュアルが「取扱説明書」または「オペレーションマニュアル」でない場合は、そちらをご覧ください。正してお詫びいたします。

